

理事長就任にあたってのご挨拶



和歌山地域経済研究機構

理事長 藤永 博

【和歌山大学経済学部長】

和歌山地域経済研究機構は、地域に根ざしたシンクタンクの機能を担う機関として、和歌山商工会議所、和歌山社会経済研究所、和歌山大学経済学部の三者によって 1996 年 7 月に創設されました。

2008 年に和歌山大学に観光学部が設置されてからは、四者の協働によって和歌山県の地域経済の活性化に資する様々な調査・研究が展開されてきました。

機構創設 21 年目を迎える 2017 年度、私は和歌山大学経済学部長に任命されました。経済学部長が本機構の理事長を務めるというこれまでの慣例により、本職に就くことになりました。私自身は地域経済研究の専門家ではありませんが、理事をはじめ機構の運営に携わっておられる方々と協力して、行政や企業の方々とも連携を図りながら、地域経済の一層の発展に寄与できるよう尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

創立後 20 年というひとつの節目を迎えたところでご挨拶の機会をいただきましたので、今回は本機構について、その「原点」に立ち戻って考えてみたいと思います。本機構の「原点」は、『地域経済』の創刊号（1997 年 4 月）に示されています。本機構の創設に尽力された小田章・初代理事長（和歌山大学元学長・和歌山大学名誉教授）は、巻頭言「和歌山地域経済研究機構が目指すもの」で次のように書かれています（一部抜粋）。

本機構は、単なる研究機関ではありません。参画している三者がもつ資産を効率的に活用し、独自の研究を進めることを通じて、県が抱えている諸問題を洗い出し、その解決策を追求します。それに基づいて行政・産業・経済界に積極的な政策提言を行うことを最終目的としています。更に、本機構は現在は三者からなる組織ですが、将来的には他の経済諸団体や研究機関とも連携しながら、活動対象を拡大し、研究内容を深化させ、そして提言内容をより現実的・問題解決的なものに発展させていくことを考えています。県活性化には三者以外の全ての機関が総合的に志向し、小異を捨て大同団結する意志が不可欠です。本機構が、そのための突破口になりたいと思っております。

この文章に本機構の創設に関わられた方々の熱い思い、すなわち「原点」を感じます。この思いを受け止め継承するために、いくつか指摘をしたいと思います。

まずは、参画している機関の「資産」を有効活用するという点です。「資産」については、この 20 年の間に蓄積・増強された部分もあれば、個々の機関において諸事情により減少した部分もあろうかと思っております。本機構が持続的に発展するためには、これらについて相

互に認識しなければなりません。

次に、(機構)独自の研究を進めるという点です。本機構に参画している機関にはそれぞれのミッションやビジョン、「強み」があります。それらを再確認したうえで機構としてのミッションやビジョンを具体的に再定義し、それぞれの「強み」を生かして連携できる研究テーマを選定することが重要だと考えています。これによって本機構の独自性と持続可能性は高まると思います。

最後に、活動対象を拡大し、研究内容を深化させ、提言内容をより現実的・問題解決的なものに発展させるという点です。本機構は和歌山県の地域経済の活性化につながる「実行される積極的提言」を今後も行っていきます。そのためには、経済・産業界、行政機関、教育・研究機関等の協力体制が不可欠です。本機構がそのような体制の基盤となるべく、多くの人々がその存在と活動に関心を持っていただけるように努めて参ります。